

1 部の 使命	<p>私たち産業環境部は、産業振興や環境保全に関わる市民一人ひとりが希求する暮らしやすい環境づくりのため、持続可能な地方創生につながる産業・環境活動を部員の能力最大化と市民との協働により継続的な挑戦で実現します。</p> <p><b>【令和5年度評価】</b> 農林業、環境、商工観光の分野を中心に、まちづくり計画の実現を向けて取り組んだが、全ての職員が挑戦できたわけではなく、能力を最大限に引き出す意識付けが十分でない部分があった。部内での勤務年数や職員の個性等を考慮しつつ、日常的に「使命」を意識する環境づくりが重要と感じたところ。</p>																								
2 それ まで の経 営評 価	<p><b>【令和5年度実績】</b> (柱②地域)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">○・有機JAS認証農場面積</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">:</td> <td style="width: 40%;">20.8ha (目標 17.0ha)</td> </tr> <tr> <td>○・新規就農者・就農研修生の増加</td> <td style="text-align: center;">:</td> <td>3人/年 (目標 3人/年)</td> </tr> <tr> <td>△・担い手への農地利用集積面積</td> <td style="text-align: center;">:</td> <td>15.7ha/年 (目標 20.0ha/年)</td> </tr> <tr> <td>△・遊休農地の解消面積</td> <td style="text-align: center;">:</td> <td>0.26ha/年 (目標 4.3ha/年)</td> </tr> <tr> <td>△・人工林の間伐実施面積</td> <td style="text-align: center;">:</td> <td>237.21ha/年 (目標 500ha/年)</td> </tr> <tr> <td>△・森林管理意向調査</td> <td style="text-align: center;">:</td> <td>335.62ha/年 (目標 500ha/年)</td> </tr> <tr> <td>－・鳥獣被害額 (の減)</td> <td style="text-align: center;">:</td> <td>[5月下旬] (目標 24,836千円/年)</td> </tr> <tr> <td>－・観光交流人口 (の増)</td> <td style="text-align: center;">:</td> <td>[8月中旬] (目標 1,500千人/年)</td> </tr> </table> <p>(柱③公共)</p> <p>○・ワーケーション参加者との連携件数： 5件/年 (目標 5件/年)</p> <p style="text-align: center;">※ [ ] は令和5年度実績のとりまとめ見込み時期を示す</p> <p><b>【評価】</b> 令和5年度経営計画書に記載した経営目標9項目のうち、達成できたのは3項目。なお、2項目は実績数値をとりまとめ中。</p> <p><b>【原因と対応】</b> 全体的に意欲的な高い目標を掲げているが、実績が特に低調だった項目に関する所見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊休農地の解消面積 毎年度実施している利用状況調査（農地パトロール）の結果を踏まえた指導の徹底が必要であったが、台風7号に伴う農地・農業用施設の災害復旧に係る業務が生じるなどして十分に対応できなかった。 令和6年度はしっかり指導を行うとともに、地域計画策定に係る話合いの機会を捉えて農地利用・管理に関する意識付けを行う。</li> <li>・人工林の間伐実施面積 大半を占める森林組合実施分の事業量が低調となった。造林事業補助金に限りがあることや、搬出間伐へのシフトが主な原因として考えられ、森林組合の持つ能力を最大限活用し、市内で継続的・効果的に間伐を推進するための方策を森林組合と議論する。 また、自伐グループや地域おこし協力隊など、新たな担い手確保・育成に努める。</li> </ul>	○・有機JAS認証農場面積	:	20.8ha (目標 17.0ha)	○・新規就農者・就農研修生の増加	:	3人/年 (目標 3人/年)	△・担い手への農地利用集積面積	:	15.7ha/年 (目標 20.0ha/年)	△・遊休農地の解消面積	:	0.26ha/年 (目標 4.3ha/年)	△・人工林の間伐実施面積	:	237.21ha/年 (目標 500ha/年)	△・森林管理意向調査	:	335.62ha/年 (目標 500ha/年)	－・鳥獣被害額 (の減)	:	[5月下旬] (目標 24,836千円/年)	－・観光交流人口 (の増)	:	[8月中旬] (目標 1,500千人/年)
○・有機JAS認証農場面積	:	20.8ha (目標 17.0ha)																							
○・新規就農者・就農研修生の増加	:	3人/年 (目標 3人/年)																							
△・担い手への農地利用集積面積	:	15.7ha/年 (目標 20.0ha/年)																							
△・遊休農地の解消面積	:	0.26ha/年 (目標 4.3ha/年)																							
△・人工林の間伐実施面積	:	237.21ha/年 (目標 500ha/年)																							
△・森林管理意向調査	:	335.62ha/年 (目標 500ha/年)																							
－・鳥獣被害額 (の減)	:	[5月下旬] (目標 24,836千円/年)																							
－・観光交流人口 (の増)	:	[8月中旬] (目標 1,500千人/年)																							
3 外部 環境	<p>◎機会</p> <p><b>【政治】</b> 社会情勢等を踏まえた、国施策の多様化。</p> <p><b>【経済】</b> アフターコロナでの経済回復の機運拡大。</p> <p><b>【社会】</b> 環境意識や既存の枠に捉われない新たな取組に対する意識の向上。</p>																								

	<p>▼脅威</p> <p>【政治】国・県施策の継続性の不透明さ。</p> <p>【市民】ニーズや考え方が多様であることによる、地域で一体的に取り組むべき事項の停滞。</p> <p>【社会】気候変動による農業や観光業等への影響。</p>
--	--

4 内部 環境	<p>○強み</p> <p>【使命】ニーズ等を踏まえた市の独自施策の推進を通じて、それに関わる職員の能力向上や使命感の浮揚につながっている。</p> <p>【協働】県や周辺市町、商工会、JAなどの関係機関と良好な関係を継続。</p> <p>▽弱み</p> <p>【人材】窓口・電話対応や補助金交付事務等の日々の業務に追われ、施策の企画や評価に注力する余裕がない。</p> <p>【情報】施策の企画・実施に必要な情報を継続的に収集する仕組みが不十分。</p> <p>【経営】経常収支比率の上昇</p>
---------------	---

5 重要 経営 課題	<p>【農業】人と環境にやさしい農業戦略の推進</p> <p>【農業】農地の担い手確保</p> <p>【林業】適切な森林整備の推進</p> <p>【環境】鳥獣被害の軽減</p> <p>【環境】環境関連施策の推進</p> <p>【商工】商工振興施策の推進</p> <p>【観光】観光戦略の策定</p>
---------------------	---

6 部の 経営 体制	<p>・所管課：農林振興課、林業活性化センター、農地政策課、環境推進課、商工観光課</p> <p>・人員：45人（うち、再任用3人、会計年度任用職員16人、CIR1人）</p> <p style="text-align: right;">※ おおや堆肥センター、あけのべ自然学校を含む</p> <p>・予算：1,104,732千円（令和5年度予算の繰越分は含まない）</p> <p style="text-align: right;">※ 予算額は財務会計システムでの予算集計表等による</p>
---------------------	---

7 部の 経営 目標	<p>(柱②地域)</p> <p>【農業】有機JAS認証農場面積 : 22.0ha</p> <p>【農業】新規就農者・就農研修生の増加 : 3人/年</p> <p>【農業】担い手への農地利用集積面積 : 20ha/年（農地利用最適化指針）</p> <p>【農業】地域計画策定に向けた話し合い : 全地域で実施（農業経営基盤強化促進法）</p> <p>【林業】人工林の間伐実施面積 : 535ha/年（養父市まちづくり計画）</p> <p>【林業】森林管理意向調査 : 1地区</p> <p>【環境】猟友会養父支部の会員数 : 90人（環境基本計画）</p> <p>【環境】鳥獣被害額（の減） : 22,645千円/年（鳥獣被害防止計画）</p> <p>【観光】観光入込客数（の増） : 1,619千人/年（養父市まちづくり計画）</p> <p>(柱③公共)</p> <p>【商工】スタートアップ等と市内事業者の連携件数 : 5件/年</p>
---------------------	--

8 部の 経営	<p>【市民】丁寧なニーズ把握と対応による信頼関係の構築。適時適切な情報発信。</p> <p>【政策】国・県の施策や社会情勢、市民ニーズ、データ、費用対効果を踏まえた市独自施策の必要性和既存施策の見直し・スクラップを意識。</p>
---------------	---

方針	<p>【協働】 関係機関との情報共有を密にするとともに、連携を意識。</p> <p>【人材】 研修、実務を通じて職員の能力開発を推進。</p> <p>【改善】 計画通りに進まなかった事案等について、その要因や改善の余地について上司と十分に議論。</p> <p>【情報】 アンテナを高くし、入手した情報は組織内で共有するよう留意。</p> <p>(経営の仕組みに関する取組内容)</p> <p>【政策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆市の各種計画やデータとともに国・県のものも把握し、施策に生かす。</li> <li>◆次年度予算の検討に際して既存施策の効果検証を行い、適切な見直しにつなげるとともに改善意識を醸成する。また、一般職員が日々の業務で感じた問題意識を吸い上げ、ボトムアップ型の施策立案につなげるための打合せを実施する。</li> </ul> <p>【業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆庁議内容の共有とは別に2か月に一度、管理職会議を開催し、部・課の経営目標の進行管理の徹底を図る。</li> </ul> <p>【能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆一般職員に対して研修や勉強会への積極的な参加を促し、自己研鑽に取り組む職場環境づくりに努める。</li> </ul> <p>【情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆庁議内容の共有時に合わせて、その時点での懸案事項等を共有するよう徹底する。</li> <li>◆訴求対象者に対し、適時に分かりやすく施策情報を伝えることの重要性を常に意識し、様々な媒体を活用して周知に努める。</li> </ul>
----	--

9 部の 重要 政策 の取 組内 容	<p>部の経営目標に関連する取組のうち、主なものを記載。 (柱②地域)</p> <p>【農業】 人と環境にやさしい農業戦略の推進</p> <p>以下の取組等を通じて、昨年度公表した「人と環境にやさしい農業ビジョン」の実現を目指す。実施に当たっては、「やぶし有機の里づくり推進協議会」の総会・各検討部会で意見交換を行い、効果的なものとなるよう留意しつつ、その結果を踏まえ、次年度以降の取組戦略を検討する。</p> <p>生産拡大：有機農業を中心とした環境負荷を低減した農業への転換・拡大を促進するため、有機JAS認証補助金（拡充）の交付や土づくり等に関する技術研修、土壌診断奨励事業（新規）を実施する。</p> <p>利用推進：PR動画の作成やオーガニックライフスタイルEXPOへの出展など、内外への情報発信や市民理解の醸成を進める。</p> <p>【農業】 農地の担い手確保（地域計画の策定）</p> <p>農業経営基盤促進法の改正により義務化された地域計画の策定を推進する。地域毎の農業者を中心とした話合いの結果、目標地図に位置付けられ（見込みを含む）、10年後の農地の担い手となる農業者の機械導入を幅広く支援するほか、営農継続に必要な基盤整備に関する課題に対応していくことを通じて、早期策定を目指す。</p> <p>【環境】 鳥獣被害の軽減（有害鳥獣防護対策事業）</p> <p>令和4年度に改訂した養父市鳥獣被害防止計画に基づき、有害鳥獣の駆除や防護柵の設置等を進めるが、有害鳥獣駆除の担い手となる猟友会の会員数が高齢化等の理由から令和5年度に減少した。このため、会員数の減少に歯止めをかけ捕獲圧を維持すべく、新たに奨励金を措置するなど、新</p>
--------------------------------------	---

	<p>規狩猟者確保に取り組む。</p> <p>(柱③公共)</p> <p>【商工】 商工振興施策の推進（養父市版スタートアップインレジデンス事業）          ビジネスプランコンテストの開催やイベントへの出展、Webサイトでの募集等を通じて、スタートアップ等が養父市に訪れ、市内事業者との交流・連携による新たな商品開発や養父市での創業を促すような機会を創出する。</p>
<p>10 部の 職場 方針</p>	<p>令和5年度の実績</p> <p>【部の目標と達成度】</p> <p>◆成果の場：職員の理解の浸透度：B（51～70%）//60%</p> <p>◆改善の場：職員の人事評価目標管理シートの改善度：B（51～70%）//60%</p> <p>【評価及び改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果の場：成果の社会的意義とその実現の重要性を多くの職員が理解しているものの、行動に十分反映しているとは言えない状況であり、決裁等の場を通じて職員に語りかけるよう努める。</li> <li>・改善の場：業務の進捗状況の管理を通じて、職員は各種変化に応じた改善の必要性を理解し行動できた部分があるものの、更なる推進に努める。</li> </ul> <p>令和6年度の目標</p> <p>【部の目標】</p> <p>◆協働の場：職員の理解の浸透度：B（51～70%）を目指す。</p> <p>◆学習の場：職員の理解の浸透度：B（51～70%）を目指す。</p> <p>【具体的取組】</p> <p>管理職会議の場において、次の内容を語るとともに、同内容を課長から職員に対し語るよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働の場：協働は組織の本質であり、一人では創り出せないことを行う職場活動の原動力であることから、積極的に協働すること、協働の責任があること。</li> <li>・学習の場：市民の要請に応えるためには、先入観や前例等にとらわれない判断が重要であり、個人の知識を深め、関係者から学ぶ必要があること。</li> </ul>